キュアクサレス2世からキュロス2世までの相関図（概略）等

NO COPY H.Taniguchi

キュアクサレス2世 ➡【メディア人ダレイオス】（ダニエル書6:1）

（アッシリア帝国を滅ぼたメディア王国の王、在位:BC625～584）→実在の有無に議論

アステュアゲス（暴君） ＝＝ **アリュエニス**

（メディア王国の最後の王、在位:BC585～550）
→BC550、メディア王国滅亡

（リディア王アリュアッテスの娘）

キュロス1世（在位:BC640～580年）

古代オリエント　アケメネス朝のアンシャン王

カンビュセス1世 ＝＝ **マンダネ（子女）**

（ペルシアの貴族、アケメネス朝の
アンシャン王、在位:BC580～559）

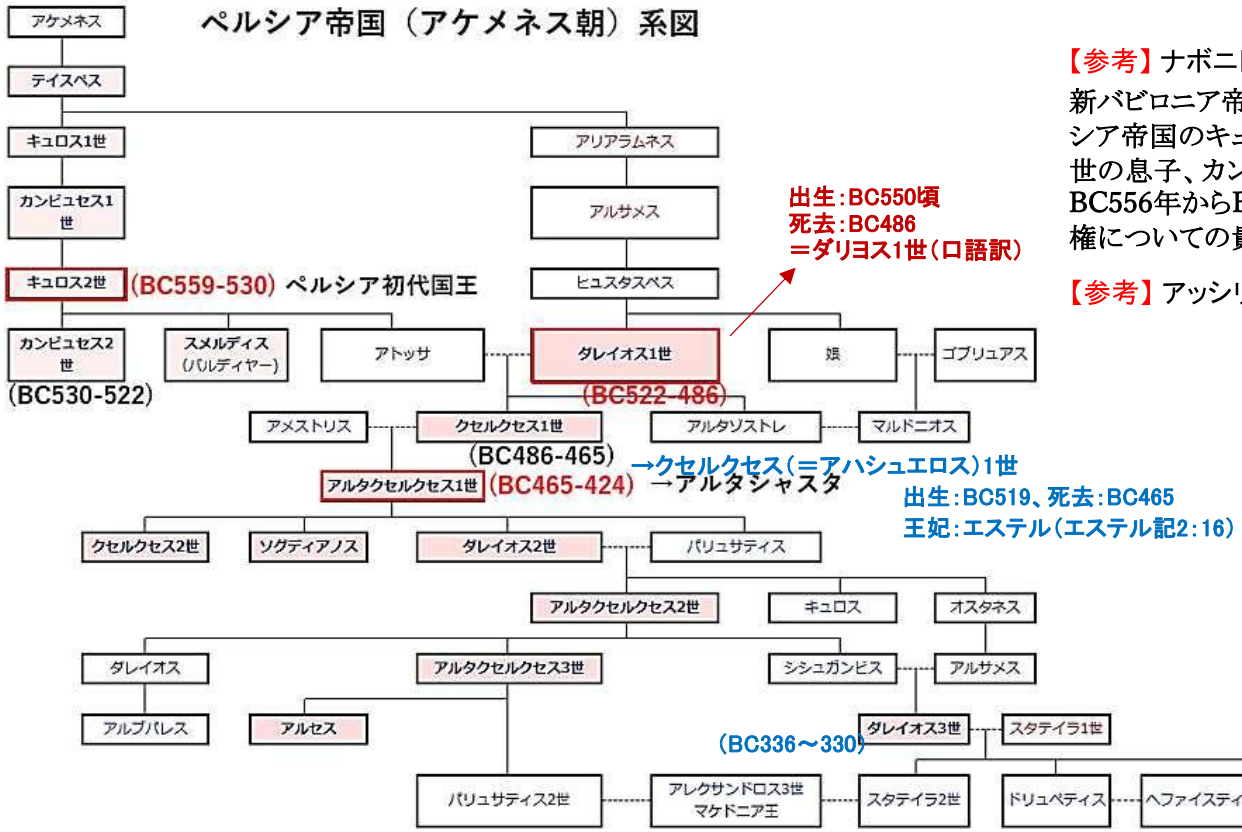
（BC584頃出生ーBC559?）
キュアクサレス2世の妹

キュロス2世

（アケメネス朝ペルシアの初代国王、在位:BC559～530）
BC539年のバビロン征服の際はペルシアの実の権力者キュロスが遠征を率い、高齢となったおじのキュアクサレス2世はエクバタナに留まっていたと（ギリシアの史家クセノフォン）

➲キュアクサレス2世Cyaxares II は、メディアの王である。キュアクサレス２世をダニエル書６：１に登場する"メディア人ダレイオスDarius the Mede"と見做す説がある。→ダニエル書9:1と矛盾
➲BC612、バビロンとメディアの連合軍によって首都ニネベを占領され、アッシリア帝国陥落、609年以降は弱体化した（ゼファニア書2:13）。
➲王位を脅かされることを恐れたアステュアゲス（暴君）は、娘のマンダネをメディア人ではなく、あえて格下のペルシア貴族カンビュセス1世に嫁がせた。
➲不吉な夢を見たアステュアゲスは、部下のメディア人貴族ハルパゴスに、マンダネの胎内にあったキュロス2世を生まれてすぐに殺すよう命じた。ハルパゴスは幼子を殺すに忍びず、牛飼いに赤子を渡したとされている。
➲キュロス2世は成長し、メディアの属国ペルシアの支配者になり、やがてアステュアゲスに反旗を翻した。アステュアゲスはハルパゴスを大将に討伐軍を差し向けたが、残忍なアステュアゲスを嫌ったハルパゴスは部隊ごとペルシアに寝返った。アステュアゲス自らが討伐に向かったが、パサルガダエ近くの戦いでキュロス2世に敗北し、捕虜になった。こうしてメディア王国は滅亡した（BC549）。

ペルシア帝国（アケメネス朝）系図



【参考】ナボニドスの年代記

新バビロニア帝国の最後の王、ナボニドスの治世を扱っており、内容にはペルシア帝国のキュロス大王によるバビロン征服に関する記述を含み、キュロス1世の息子、カンビュセスの治世が始まるところで文書は終わる。時期としてはBC556年からBC539年までの範囲である。この文書は、当時のキュロスの覇権についての貴重な史料である。

【参考】アッシリア帝国滅亡後の4国分立時代（BC600年頃）